

Q

子供や高齢者の転倒事故が心配なのですが？

A

適度なすべり特性をもつコルクフロアは転びにくく、万一転倒してもその衝撃を吸収できるので安心です。

適度な滑り抵抗が生み出す確かな安全性

滑りやすい床の危険性はもちろんですが、極端に滑りにくい場合もつまづいて歩行時の転倒事故につながります。許容範囲を満たす適度な滑り抵抗が床には求められます。

■履物装着の場合のすべり試験

清掃状態と水+ダスト散布状態におけるすべり抵抗値 (JIS A 1454, JIS A 5705)

■試験結果 (東京工業大学 小野研究室)

		← すべりやすい ————— CSR値 ————— すべりにくい →										
		0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1
紳士硬底靴 ●清掃状態 ◆水+ダスト散布状態	許容範囲 (歩行時)	—————										
	コルクパーケット					◇ 0.478				○ 0.875		
	コルクマスター					◇ 0.465				○ 0.890		
	コルクスタイル					◇ 0.513				○ 0.951		
	コルクオーフロア					◇ 0.442				○ 0.937		
くつ下 ●清掃状態	許容範囲 (歩行時)	—————										
	コルクパーケット			○ 0.295								
	コルクスタイル					○ 0.432						
スリッパ ●清掃状態	許容範囲 (歩行時)	—————										
	コルクパーケット								○ 0.433			
	コルクスタイル									○ 0.557		

転倒時の衝撃を吸収するクッション性

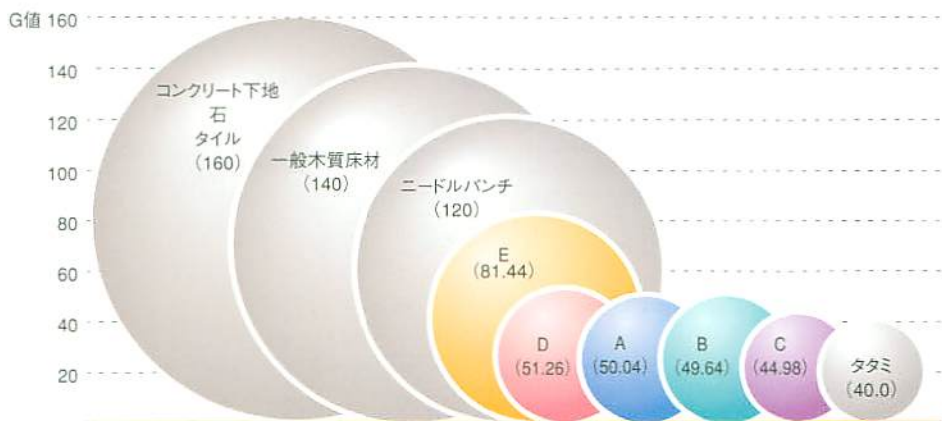
コルクはクッション性にすぐれています。万一転倒した場合にも、衝撃を吸収しますので高齢者やお子様にも安心してご使用いただけます。

■転倒衝突時の床のかたさ試験

人間の頭部に近似したヘッドモデルを高さ20cmから落下させ最大加速度を測定 (JIS A 6519)

試験床材	A	B	C	D	E
	①コルクパーケット ②合板 	①コルクパーケット ②5mmコルクシート ③合板 	①コルクパーケット ②8mmコルクシート ③合板 	①コルクスタイル ②合板 	①コルクパーケット ②8mmコルクシート 
引振荷重 (kgf)	50.04	49.64	44.98	51.26	81.44

■試験結果 (東京工業大学 小野研究室)



Q

コルクの床を歩くと音がひびかないのはなぜですか？

A

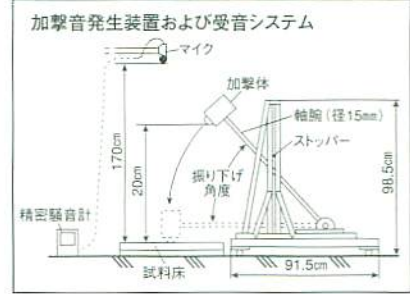
コルクはすぐれた遮音性と吸音性があります。床の仕上材や下地材に使うことでさりげない防音効果を発揮します。

床の発音試験および他の床との比較

コルクの持つバランスのとれた柔らかさが、スリッパなどの「バタバタ」音や子供が走りまわる時の「ベタベタ」音の双方に効果を発揮します。また、内部の空間に対しては反響音も軽減します。

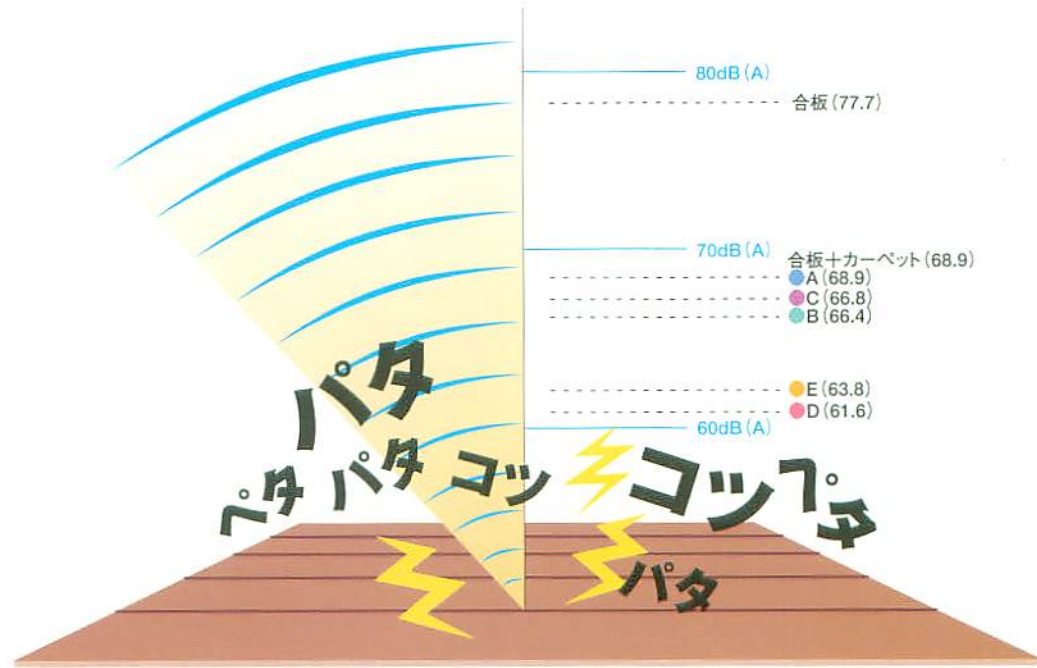
■試験方法

右図の加撃音発生装置および受信システムを用い、発音量を測定しました。床の発音は騒音および効果音として把握できます。



■試験結果(東京工業大学 小野研究室)

試験床材	A	B	C	D	E
	①コルクパーケット ②5mmコルクシート	①コルクスタイル	①コルクマスター ②8mmコルクシート	①ウッドオーフロア ②3mmコルクシート	①コルクオーフロア ②3mmコルクシート
発音量 (dB (A))	68.9	66.4	66.8	61.6	63.8



床材としての適性を実証するすぐれた耐摩耗性

コルクはその柔軟性や見たためから、強度が弱くすり減りやすく見られがちですが、試験の結果を見るとおり、すぐれた耐摩耗性をもつ床材であることがわかります。

■試験方法 (JAS-日本農林規格摩耗A試験)

JIS A 1453に定める耐摩耗試験装置を使用し、500回の回転を行い、500回転後における試験片の表面の変化及び100回転当たりの摩耗減量を求める。この場合総過重量は1,000gとする。

■試験結果 ((財)日本合板検査会)

適合基準	試験結果
500回転後において表面材料が残っており、かつ、100回転当たりの摩耗減量が0.15g以下であること	適合基準をすべてクリア